




2023 年度大学院看護栄養学研究科栄養管理学専攻 学位論文審査報告書

学籍番号	20152101	学生氏名	田中 洋子
学位論文 題目	北海道産ダツタンソバとタマネギの α -グルコシダーゼ阻害活性に関する研究		
主 査	西 隆司 	副 査	荒川義人 
			志賀一希 
<p>博士後期課程の論文審査基準より、</p> <p>1. 本論文の一部の内容は外部雑誌（日本補完代替医療学会誌 18(1), 29-36, 2021）に掲載されており、当該論文の別刷が博士論文と共に提出されていることから、審査条件を満たしている。</p> <p>2. 博士論文の内容に対する具体的な審査基準に対して、</p> <p>（1）本論文の研究テーマは糖尿病の予防・改善につながる内容であることから、栄養管理学における課題としてふさわしい。</p> <p>（2）糖尿病の現状と糖尿病の食事療法、特に健康食品や特定保健用食品の利用状況と問題点を背景として取り上げると共に、糖尿病対策用の食品素材の開発を目指した新たな血糖上昇抑制作用を示す食品成分の検索を行う旨が研究目的として記載されている。</p> <p>（3）活性成分の分画と同定方法、α-グルコシダーゼ活性の阻害率の算出、ヒトを用いた食後血糖測定試験など、研究目的に応じた適切な手法が用いられている。</p> <p>（4）ヒトを用いた食後血糖測定試験では、天使大学研究倫理委員会の審査、承認を受けて実施している。</p> <p>（5）実験方法では先行研究で用いられている方法を参考にすると共に、考察では先行研究との類似点や相違点について過去の文献報告を挙げて適切に記載している。</p> <p>（6）ダツタンソバとタマネギ中のケルセチン及びケルセチン配糖体にα-グルコシダーゼ阻害活性があること、ダツタンソバ摂取によって食後の血糖上昇が緩やかになり、その効果にはα-グルコシダーゼ活性の阻害が関与すること、タマネギの処理方法がα-グルコシダーゼ阻害活性に影響を及ぼすことなど、新たな知見が得られている。</p> <p>（7）それぞれの研究ごとに目的、方法、結果、考察の順に記載されており、一般的な学術論文の記述形式に従っている。</p> <p>（8）博士論文の内容を適切にまとめて発表し、発表に対して出された質問についても根拠データを示しながら適切に回答できていた。</p> <p>以上より、本論文は博士の学位に対する審査基準を満たすと審査員一同で判断し、「合」と判定した。</p>			

▼どちらかに○

判定	<input checked="" type="radio"/> 合 ・ 否
----	--